

活躍してます

JR東日本旅客鉄道株式会社
鉄道事業本部 設備部次長

片方聡

(かたがたとし)さん
〈昭和55年卒〉

JR東日本が開発・発行したICカード乗車券「Suica」の利用可能なエリアが拡大している。ことに昨年(2007年)3月の首都圏のICカード相互利用により、その利便性は拡大され2370万枚(2007.12)になっている。

その「Suica」の開発担当者一人である片方聡さんを新宿のJR東日本本社に訪ねて「Suica」開発物語」を聞いた。

世界に広がる

「Suica」の技術

「スイスイけるICカード」と呼ばれる「Suica」はJR東日本が開発したものである。

Suica導入、実用化に当たっては、5つのコンセプトを持って目指した。

一つは駅務を変える「システムチェンジ」、二つ目は「サービスアップ」、三つ目は「コストダウン」、四つ目は「セキュリティアップ」、そして五つ目は「ビジネスチャンス」を広げることである。

現在ではJR西日本が「ICOCA」、JR東海が「TOICA」、という名称で利用が開始されている。関東圏の私

鉄、地下鉄やバスでは、「PASMO」の名称で昨年3月から利用が開始され、相互利用の可能により大幅に利用者が拡大してきている。

ただし注意すべきこととして降車駅の改札機がICカード用になっていない駅、あるいは無人駅の場合は、従来どおり切符購入等による乗車が必要となる。「Suica」導入にも一つ利点があったように、それは不正乗車が相当数減ったと思われるということである。数値的に確定は出来ないが、「Suica」の潜在能力の高さから推定が出来ることである。



また、今年秋から明治大学の学生証とSuica定期券が一体化した学生証が誕生することである。

国内はもとより世界的規模でSuicaの技術が採用される今後は、片方聡さんをはじめとする技術者集団の益々の活躍が期待される。

(写真文 小川晴望)

那須高原だより

20

那須高原海城中学・高等学校学習進路指導部長

塩田 顕二郎 (平成33年卒)

今年ついに東京大学(理科Ⅱ類)への合格者が出ました。これまで京大・阪大などへの合格者はいましたが、東大は初です。

本校は一学年が30・40名と少人数です。そうした中で、東大合格者が出たことはこの後に続く後進に大きな励みとなりました。

「読売ウィークリー」(08年4月6日号)では東大合格者を数で競うのではなく、卒業生の数に対する東大合格の比率

夢を持って前進を

1997年にたった2人でスタートしたこのプロジェクトは、幾多の変遷を経て拡大、成長し、昨年7月にIT・Suica事業本部として独立、百数十人の組織となった。この過程はNHK特集番組「プロジェクトX」で取り上げられ、2005年11月1日にテレビ放映された。

海外での「ICカード乗車券」は、いずれもエリヤパスのものが多く、日本の定期券のようなものはない。殊に東京は複雑なものはない。

世界には香港の地下鉄・バス、パリ市交通営団、ロンドン地下鉄、ドイツ交通協会など、実用化されているものや、計画中のICカード運賃収受システムなどがある。それらの担当者と意見交換など交流する機会が多いとのことだ。この分野はISO(国際標準規格)でもIFMS(International Fair Management System)として検討されている。

片方さんは工作好きの少年だったという。動物も好きで、獣医を志した時もあった。しかし、ロボットの好きな「形が見えるものが好きで、本校卒業後は早稲田大学理工学部機械工学科に進んだ。

大学卒業後は東芝に勤め、この造りの技術を身に付けた。30歳の時、JR東日本に応募、50倍の難関を経て移籍したという。彼はユーザーへの技術提供が大切であるという。技術を用いたサービスをお客様に如何に提供するかが必要なことだという。それは、まずどんなサービスをするのか、そしてその実現にはどんな技術が必要なのかを考えることだという。

「常に夢を持ってほしい」。そうすれば自分が何になりたいか、何をすれば良いかが自然に頭の中に取り入れられていくという。高校時代を振り返ると、理科コースにいたが、サッカーなどにも打ち込み、勉強ばかりの学生生活でないイメージがあるという。夢に向かって突き進む、もの造りの大切さを語ってくれた。

(文 石原長夫)

「合格実績」

国公立/4名
医歯薬系/14名
その他/66名

全寮制教育のバイオニア

「那須海城」を

ぜひ見てください

春の体験入学
6月7日(土)・8日(日)
那須海城祭
6月14日(土)・15日(日)
夏の体験入学①
7月19日(土)・20日(日)
夏の体験入学②
8月14日(土)・15日(金)
夏の体験入学③
8月23日(土)・24日(日)

※学校説明会

会場/海城中学校・高等学校
校(新宿区大久保)日時/6月22日(日)
7月27日(日)

いずれも午後1時~3時

「海原」の教え

編集活動を振り返って

昭和62年卒 鈴木武道

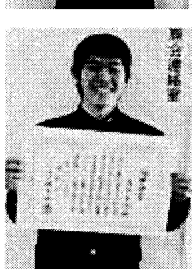
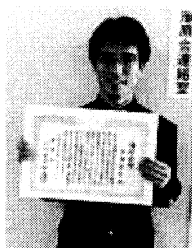
約5年、会報紙「海原」の編集委員をさせていただきましました。卒業してから全く学校に顔も出さず、たまに新大久保の駅を降りて軽い郷愁を覚えるだけでした。「海城大好き」とはどくらい自分が、ここまで本紙に携わったもの、ひとえに編集委員の先輩方・担当の先生方の温かいお気持ちがあったからだと思います。正直、年齢的に仕事量が一番さむ時期に、月によっては毎週土曜日をこの編集活動に費やすのは厳しい面もありました。

中倉君は勉学に励む傍ら口ごとの読書活動を通して、東京都青少年読書感想文コンクールにおいて2年連続入選した、特に2006年度の全国コンクール自由読書部門ではサントリ奨励賞受賞の快挙を成し遂げ、海城の名を上げた。

中倉君は海原会賞の他、皆勤賞・功労賞をも受賞された。

中倉徹紀君

篠原友樹君



平成19年度(平成20年3月卒業)の海原会賞の受賞者は中倉徹紀、篠原友樹の両君に決定。3月18日の卒業式に植木会長臨席の元に和田校長より賞状と記念品を贈った。受賞理由は次の通り。

平成19年度海原会賞受賞者

しかし、こういった関係者皆さんとお話しすることができたのは、将来の人生の上でも大きな財産になることでしょう。さて、今までの編集活動を振り返ると、印象に残っている記事は一つあります。

私は紙面のDTP制作も担当していましたので、最終的なデータ作りをしていました。その中で一つです。

まずは「山下先生の退職記」。記事も出来上がり、紙面全体のレイアウト納品を仕上げていた時に、当日に先生の訃報の連絡が入りました。もう、修正がきかないので、委員会の皆さんと相談して余白に似し書きを加えました。

もう一つは同期が亡くなった時に、お通夜に出てすぐに編集会議があり、訃報欄に自分の手で入力しなくてはならなくなりました。

退職雑感

元物理科 佐藤 宏



縁あって海城に「厄介」になつて三十九年が過ぎ、三月に無事退職となった。

大久保の町並みの変化は著しい、軽流飲食店とコンビニで通りが席巻された感がある。

学校に入ってくる生徒も変わった。

大勢の受験生で賑わった時代は、第一志望が満たされなかった挫折感を持った生徒も多かった。その中で海城を積極的に受け入れて頑張っていた人たちは、その後の展開が開けていくように思う。

都立の学校群制度、学園封鎖、運動や高度成長などさまざまな要因が本校にとって幸いした。次第により生徒が増え、今日のようになつてきた。この間、募集や学園の広報活動、入試の内容や期日などにも細かい手が打たれていた。実に営々と作り上げてきたものである。

頭は良いが、海城に漫然とぶら下がってはいれば何とかなる、と考えているように見える生徒も居る。これは新しい時代に入っているのかもしれない。初めて持ったクラスはとて

海城36年

関尚明先生インタビュー



関先生は、昭和46年から数学科教諭として、活躍なさいました。ご自身も海城中高の出身（昭和39年卒）であり、学生時代を含めると、42年も海城に関わった先生でした。

3月末日、先生にインタビューすることができました。

中村久憲（昭和48年卒）

☆教諭として海城に戻ってきた第1印象は？

前任校が職業科の高校だったので、教員に興味のある生徒が多くて授業がおもしろかったですね。また、高校時代の担任である中島先生から、春休みに数学科の講師をしてくださいとお願いしましたので、赴任前に那古寮を使った講習に参加しました。ですから、その時の生徒達もいましたので、4月以降も

よく、幸運なスタートだった。都合六回の卒業生を出した。その間、自筆の編集にも携わって、あちらこちらに資料を求めて回ったことも懐かしい。また六年間の学年主任も充実したものだ。

最後の五年間は庶務渉外部長として、自分の方法で運営できて楽しかった。またPTAのお世話というところで、担任と違う目線で親御さんと接した事で、別の角度から学校が見えたことも幸いである。

一定年まで無事に勤め上げたという事は、ごく平凡なことであるが、偶然も味方している。やはり運がよかったのだ。卒業式で精勤賞・皆勤賞をもらう生徒たちを最大限はめてあげたい。

指導もしやすく、所謂「落ちこぼれ」の生徒は入らなかつた。修学旅行も少人数ということもあり、新幹線の東京駅ホームで集合ということができました。いまは考えられないことですね。奈良の吉野から和歌山に四回へ渡るといふ行程でした。予定では完成したばかりの本四架橋を通るはずでしたが、上りが遅れて宇高連絡線に乗ったのを覚えています。担任の五十嵐先生・内田先生と学年補佐の長島先生・大澤先生と行きました。人数も少なく楽しい修学旅行でした。

☆先生は学習指導部長を長く担当なさっていました。その時のご苦労などありましたか？

最初のころはコンピュータなどはありませんでしたから、入試統計を作るのが大変でした。手作業でやりましたので、夏休みを使って作業をしました。秋の父母会に間に合うかどうかというところでした。後でコンピュータが導入され格段に楽になりました。

また、卒業生に対しては、よく教員の話聞き、今の海城の黄金時代を作ってくれたことを感謝しています。社会に出て、これからはいろんな意味で活躍してほしい。これから十年二十年の間に逸材が出てくるはずですよ。期待しています。

☆ありがたうございました。

海原会の功労者

事務 大西 喜和



大西先輩長い間、ありがたうございました。

中村久憲（昭和48年卒）

3月末をもって、母校事務の大西先輩（昭和36年卒）が退職されました。大西先輩は昭和36年から海城に奉職し、河原先生ご退職のあとには海原会の事務を一手に引き受けていました。大西さんがいなければ、総会も新聞発行もできなかったといつても過言ではありません。大西さんの仕事が大変であるというのは、ほとんどの人が認識していま

また、最初のころは東大の合格発表を必ず見に行きました。今は個人情報問題で変わりましたが、そのころは合格者氏名が発表されました。

学習指導部長としてのノウハウをだれかに伝えたいですね。そういう機会があれば、と思っています。

☆最後に海原会・卒業生へ一言ありましたらお願いします。

まず、海原会にお願いしたいことは、「海原会館」のようなものを作ろうということです。同窓会として卒業生の力をかりて作れないかと思えます。これからの海城・同窓会のために重要だと思います。

また、卒業生に対しては、よく教員の話聞き、今の海城の黄金時代を作ってくれたことを感謝しています。社会に出て、これからはいろんな意味で活躍してほしい。これから十年二十年の間に逸材が出てくるはずですよ。期待しています。

☆ありがたうございました。

クラブ活動だより 23

弓道部

的中より体配



こんにちは、高校弓道部部長の河原直毅です。

海城の弓道部は、中高合わせで総部員数約80人（新中1除く）の部活です。練習は主に1号館裏の弓道場（場所すら知らない人も結構多いと思います）で行なっていて、夏休みには中高合同での合宿を行うほか、年に数回、東京武道館などの大きな道場を借りての練習を行っています。練習は、ほかの多くの運動部のようなランニングや筋トレなどのハードなものではなく、基本的には実際に弓を引く練習と型の練習を行なっています。また、大会は都内で開かれるものにはほとんど参加しています。

弓道というと皆さんはどのようなものを思い浮かべますか？多くの人が的を射抜いて、その的中数を競うスポーツというイメージを持っていると思います。確かに弓道と同じように弓を使うスポーツであるアーチェリーは、そのようなものです。しかし、弓道はアーチェリーと大きく異なります。弓道はアー

チェリーなどのように人と競い合うことを目的とした、いわゆる「スポーツ」とは異なります。弓道は、「弓道」という言葉から

「的中」よりも「体配」、つまり「射る姿勢」を重視している。弓道では矢を

当てることだけ目的とすることを目指す。そのために、ひどく使い古された、月並みな言い方になってしまいがちですが、弓道は「自分自身との戦い」と言われます。弓道では「体配」を重視するため、弓道は相手がいなくても、自分自身との戦いである。弓道では「的中」よりも「体配」、つまり「射る姿勢」を重視している。弓道では矢を

チェリーなどのように人と競い合うことを目的とした、いわゆる「スポーツ」とは異なります。弓道は、「弓道」という言葉から「的中」よりも「体配」、つまり「射る姿勢」を重視している。弓道では矢を当てることだけ目的とすることを目指す。そのために、ひどく使い古された、月並みな言い方になってしまいがちですが、弓道は「自分自身との戦い」と言われます。弓道では「体配」を重視するため、弓道は相手がいなくても、自分自身との戦いである。弓道では「的中」よりも「体配」、つまり「射る姿勢」を重視している。弓道では矢を

同期会・クラス会等

通信

◆幹事のみならずへ
同期会・クラス会を開かれた時は
海原会事務局まで写真・原稿を
お寄せください。

昭和26年卒 海原二六会

▼悪条件でも集まる訳は？

◎平成20年2月24日(日)
◎於・高門寺「アルシェ」
◎出席者・9名

ともなっている。勿論カラオケ設備もあって、のど自慢にはあがりた店でもある。同期の皆さん、一度遊びに来て下さい。元気な顔を見せてください。待っています。(小川晴室 記)

昭和31年卒 三一會

▼「海城高校昭和三十一年卒業生同期会(三一會)の古橋を祝う会」

平成19年11月17日、今年度中に全員が古橋を迎える我々は、この日に、卒業後51年間の発展した母校の各施設を目の当たりにしながら、カフェテリアをお借りして、海城高校「三一會」古橋を祝う会」を開催した。卒業後10年目に第一回の同期会を開催したのを皮切りに、十数回として働いてくれた、その中心として、斎藤雄和の両君、それに毎回、世話人として関わってくださった、池永雅則君が亡くなり、今回の開催に際しては、上野周、大澤英夫両君の他17名の世話人がこれにあたり、故人となった三君の苦勞を思い知ったのである。卒業時に、242名の我々だったが、51年の歳月によって、現在住所判明者は132名になってしまった。その中で今回は56名が参加した。久しぶりの会なので、何人集るかに配ったが、42%の出席率だった。開会にあたり、進行役の大澤英夫君の発声で、過去に諸先生方と、不幸にして早くに亡くなった同期の諸氏に、黙祷を捧げた。上野周、世話人代表による、恩師中島吉行先生の、年相応にお元氣なご様子、報告を含めた挨拶と、



昭和26年卒海原二六会

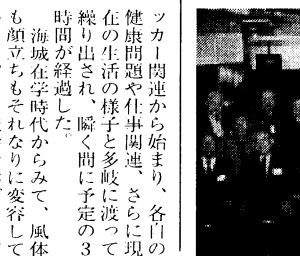
昭和31年卒三一會



昭和34年卒
さいたま海原三四会



昭和27年中学入学
同期会



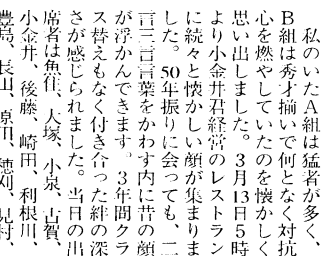
昭和39年卒
海原三九会

昭和27年中学入学
同期会



昭和39年卒
海原三九会

昭和27年中学入学
同期会



昭和39年卒
海原三九会

昭和41年卒
同期会

▼同塊世代ここに在り

昨年の11月10日、「海城学園昭和41年卒業生還暦記念同期会」が、学園のカフェテリアを借りて開かれた。冷たい雨のそは降る中集ったのは74人。恩師の菅野先生、大澤先生にもご出席いただいた。

男は頭髪や腹回りが変化して女性よりも外見年齢が違ってくるといわれる。司会進行役の山口君も「私も間違いない同期です。」「と風貌を気にしながら笑っていたが、同じ時期、同じ空間で一緒に過ごした仲間には同じ海城の空気が漂っていることになる。」「どうして」「今何やってんだ」「あの時は授業サボって遊んだな」と、一気には時間的壁は取り払われ話は止まらない。菅野先生には「耳従うことな

昭和47年海城中学入学会
同期会

▼初参加！平野君・松本君

◎平成19年11月10日(土)
◎於・笑々、池袋西口店

◎出席者・9名
この会は、平成13年9月に小室寿典君の13回忌に参したのを機に発足し、今回で7回目の開催へとつながった。

なんといつても今回は平野君の不動産会社での管理職としての苦勞と、体当たりでの子育ての仕方について話集中した。松本君においては、なんとアメリカNASAでの任務、我々一般サラリーマンでは理解できないながらも大いに盛り上がる話が多かった。途中、小室君の母様にも携帯から会の様子を見ることができた。

平成5年卒9組
クラス会

▼懐かしの新大久保で

◎平成20年3月1日
◎出席者・6名

毎年恒例になっている平成5年卒小林組同窓会。今年は3月1日に新大久保界隈で行われました。毎年幹事を務めさせていたでいては私としては、在校生時代からどことなく変わった新大久保周辺に戸惑いつつ、懐かしい顔が見つかることとすのが習わしとなつています。今年は、石塚君、吉田大志君が揃って新大久保駅に降り立ち、小林先生とともに「くら水産」へ。激安の「ちりあわび」に舌鼓をうちつつ、懐かしい話が弾みます。しばらくすると白石君が合流して、「世界の山ちゃん」に会場を移動。当日は九州に出張で欠席だったM君をは

昭和62年卒3組
クラス会

▼気になる話も！

◎平成20年3月9日
◎出席者・9名

小林組1期生は今年もクラス会を実施しました。固定メンバーが多いとはいえ、毎年10人以上の参加者もあり、山交を温めています。このメンバーで飲むときは、心は高校生のままで。小林先生はもちろんです。私たちが指導いただいた先生達は今も海城で教鞭を執っていらつしやるからでしょう。今でも、新大久保の駅を降り立つとき、ずっと背筋が伸びる気がします。そんな我々もついに厄年間近となりました。クラス会の話題も20代の時の大学や結婚の話から、

平成8年卒3組
クラス会

▼連絡網の整備を！

◎平成20年2月16日
◎出席者・6名

2月16日、例年通り新大久保で平成8年卒3組の同窓会を開きました。最近では海外や地方勤務の者も多く、出席者は少なめの6名でしたが、結婚の報告などめでたい話もあり大いに盛り上がりでした。その後、新館に移動し歌舞伎町で2次会を行いました。そして、次回の同窓会には盛んに開催すること。クラス会の連絡をしやすいように、に、メーリングリストを作成することにし、散会しました。

※メーリングリスト参加希望の方は西松(tissy@b-aunet.jp)までご連絡下さい。
参加者・小林先生・関口・島・岩上・富川・西松
(西松安一郎 記)

メールアドレス
y-shimo@yellow-pala.or.jp
まで。報告を
参加者・小林先生・石塚君・白石晶・山下崇・吉田大志・下川原優一(下河原優一 記)

平成17年卒(旧6年2組)
安楽組

◎平成20年1月14日(日)
◎於・新宿、A g e h a
◎出席者・21名

「成人の日にお会い」ということになりました。

法曹を目指し勉強中の人もいれば、大学受験生ながら六本木のキャバクラで呼び込みのパイトをしている豪傑も、一層の成長と発展を祈念しております。

平成15年卒
クラス会

▼竹内先生 お久しぶりです！

◎平成20年1月5日(土)
◎於・新大久保居酒屋「和民」
◎出席者・14名

僕ら7組は卒業して以来、クラスの一人のたちで時々集っていたが、年々少しずつ参加人数が増え、昨年よりクラスのみんなに連絡をとって本格的な同窓会をやろうということになりました。そして昨年の会で毎年1月5日に同窓会を開こうと決めて今回は初の同窓会となりました。

懐かしい新大久保近くの居酒屋で開かれた会でしたが、当時後任だった竹内先生にも卒業後初めて参加していただいた人数は多くはなかったものの、楽しみの会になりました。会はずいぶん近況報告に始まり、会はずいぶん懐かしい話、またそれぞれの大学の話、竹内先生の近況報告などで盛り上がり、あつという間の時間でした。そしてその後は2次会で再び盛り上がり、いつもの間にか終電の時間になってしまい、また来年の再会を約束し、解散。

鉄道研究会OB会

2008年鉄道研究会OB会報告と創部40周年貸切列車運行のお知らせ

毎年恒例の鉄道研究会OB会が1月5日(土)に新宿、いさみにて開催されました。昨年に引き続き学生を中心とした若手から創部当時を知る方々まで幅広い層が集り、顧問の小林先生にも参加をして頂きました。盛況のうちに終了致しました。

また2008年は鉄道研究会創部40周年にあたります。これを記念し貸切列車の運転を行います。日には9月23日(火・秋分の日)、現段階では上信電鉄か上毛電鉄での実施を予定しています。参加を希望される方は左記までご連絡下さい。

連絡先

http://www.kaijotekkenob.com
info@kaijotekkenob.com
(参加のご連絡は)こちらまで
お願い致します。
幹事・関田洋彰(平成15年卒)
携帯:080-6531-8246
komato5@ezweb.ne.jp
PC: komato5@gmail.com

平成20年度 大学入試結果

無駄が人を育てる



学習指導部部長 春田裕之

私が海城学園に勤務して、30年の歳月が経った。当時中堅どころといわれた先輩達は、この数年で次々と退職されている。現在の海城を作り上げた方々である。校舎も改装、新築を重ね、今やすっかり様変わりし、一部の学舎を除いて、8階建ての近代的な校舎（号館）が勉学の場となった。教室は勿論のこと、アリーナも柔剣道場もすべて空調による冷暖房が完備されている。昭和の時代に学園生活を送った諸氏は、冬の武道（以前は格技といっていた）の授業は素足で震えた覚えがあるかもしれない。教室のスチームのバイブに弁当箱を乗せて温めた覚え

があるかもしれない。そして今年、二号館の一部を取り壊し、新たに校舎を建て、天然芝を張り、テニスポールで遊び回った「前庭」は、とてもすっきりとした空間に生まれ変わった。

私はこうした海城学園の教育環境の変化と教育との関係について考えてみたいと思っている。分析は不可能である。従って私の感想で留まることをお許し願いたい。

今年の入試結果は、一見表の通りだが、私は決して満足していない。生徒一人一人は自分の目標に向かってよく努力してきたと思う。そういう点では十分評

価に値する。しかし、私はこんなことを考える。「現役で目標を達成するにはどうしたらよいのか？」そして思いつくことは極めて当たり前のことなのだが、学習環境の整備、つまりハード面の整備だけでは教育はできないという点だ。ソフトの面、例えばカリキュラムや生活指導、毎日の授業に取り組み姿勢（生徒も教師も）、学校行事、更には保護者の子供や学校に対する姿勢などについても考える必要がある。教育制度の変化と共に、海城の教育も変化した。進学校実績も上がった。高等学校は9クラス体制となり、中学校の40人学級7クラス体制も本年度完成する。形としては確かに望ましい方向に進んでいるのだから、何か欠如している、という思いが常にわく。

この欠如感の因は、教育環境が整い進捗実績が安定してきた反面、生徒も教師も昭和の時代のバイタリティーが消えてきたところにあるのではないかと考えている。単なる懐古趣味からの思いではない。海城が目指す受験生は、常に一定の教育が保証されることを望むであろう。確かに期待はそれでは申し訳ない。だが教育内容は「様」にしてしまおう、どうしても若干のレーム低走を招いてしまふ恐れがある。また、上天の余地も減ってしまふ。具体例を一つ挙げてみよう。例えば、修学旅行。海城高等学校の修学旅行はユニークなものであった。北海道の日本平や平取、或いは九州の珠璣ファームステイして農作業をした。7泊8日の大旅行であった。当時は夏休み中の実施だからできたことだろう。片岡島の縄文杉登山はともかく、身も心も引き締まる体験であった。こうした修学旅行には綿密な下準備が必要である。生徒も教師

も緊張して臨んだと思う。勿論現在実施している修学旅行も海城らしい価値あるものである。「沖縄」という毎回変わらぬ目的地、様々な点において時間と経費が削減できるものもある。しかし、プログラムに多少の差異があっても「同じ」としてしまおう、どうしても若干のレーム低走を招いてしまふ恐れがある。また、上天の余地も減ってしまふ。具体例を一つ挙げてみよう。例えば、修学旅行。海城高等学校の修学旅行はユニークなものであった。北海道の日本平や平取、或いは九州の珠璣ファームステイして農作業をした。7泊8日の大旅行であった。当時は夏休み中の実施だからできたことだろう。片岡島の縄文杉登山はともかく、身も心も引き締まる体験であった。こうした修学旅行には綿密な下準備が必要である。生徒も教師

も緊張して臨んだと思う。勿論現在実施している修学旅行も海城らしい価値あるものである。「沖縄」という毎回変わらぬ目的地、様々な点において時間と経費が削減できるものもある。しかし、プログラムに多少の差異があっても「同じ」としてしまおう、どうしても若干のレーム低走を招いてしまふ恐れがある。また、上天の余地も減ってしまふ。具体例を一つ挙げてみよう。例えば、修学旅行。海城高等学校の修学旅行はユニークなものであった。北海道の日本平や平取、或いは九州の珠璣ファームステイして農作業をした。7泊8日の大旅行であった。当時は夏休み中の実施だからできたことだろう。片岡島の縄文杉登山はともかく、身も心も引き締まる体験であった。こうした修学旅行には綿密な下準備が必要である。生徒も教師

度とはいわぬがそれに近いくらいに変えてしまふ生徒もいる。何のために勉強してきたのか疑問に思ってしまう。試験のための効率的な勉強法を教えず、「自分」或いは「知」のためのものではないのかと問うた。私は難しい勉強だけではなく、一見無駄とも思われる試み、強い人間を作っていくののではないかと考えている。

海城学園もハードの面はかなり整備された。しかし、ソフト面については効率化することだけに考えているのではなく、多少の無駄が生じて、時に就いては就いていくことが必要ではないかと思う。海城の3年間もしくは6年間、つまり、現役で目標に到達する力（学力と英知）を養っていく体制を完成させなければならぬと思いつく。今後の学園の様々な取り組みに期待してもらいたい。

鈴木武道編集委員の辞任について

今年の初めでした。鈴木委員と本号発行のための編集委員会開催の日程等について、ご都合を電話でお聞きしたところ、仕事が大変忙しく、委員の継続は困難なので、辞任させて頂いたとの申し出がありました。鈴木さんには単に編集、取材以外に、委員会の毎度、紙面構成、割付、タイトル付け等の作業を、ゲラ刷りを含め、すべてやって頂いていました。そのことで、委員の業務は相当軽減され、また印刷屋さんにはそのまま印刷すればよい状態で渡していたので、経費節減にも大きく貢献されてきました。

その鈴木さんが辞任されることは、誠に淋しい残念なことです。編集委員一同、鈴木さんのこれまでのご尽力に対し、心から厚くお礼を申し上げます。ご発展をご祈念いたします。

(編集委員長 小川晴彦)

計報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

国立大学

	学部	総数	現役	卒業生
東京大学 前 44 後 0 合計 44 (現役28, 卒業生16)	文Ⅰ	8	4	4
	文Ⅱ	9	7	2
	文Ⅲ	6	3	3
	理Ⅰ	17	10	7
	理Ⅱ	4	4	0
京都大学 合計 8 (現役4, 卒業生4)	文	1	0	1
	法	1	1	0
	経済	0	0	0
	教育	0	0	0
	総合人間	1	0	1
一橋大学 前 23 後 3 合計 26 (現役11, 卒業生15)	理	1	0	1
	工	2	2	0
	医	1	0	1
	薬	0	0	0
	農	1	1	0
東京工業大学 前 12 後 5 合計 17 (現役10, 卒業生7)	法	3	1	2
	経済	10	4	6
	商	4	1	3
	社会	9	5	4
	第1類	1	1	0
北海道大	第2類	2	1	1
	第3類	1	0	1
	第4類	8	6	2
	第5類	2	1	1
	第6類	1	1	0
東北大	第7類	2	0	2
	5(2)	1	4(2)	
	7(2)	4(1)	3(1)	
	1(1)	1(1)	0	
	2(2)	0	2(2)	
秋田大	8(4)	4(1)	4(3)	
	4(4)	2(2)	2(2)	
	4	3	1	
	7(1)	4(1)	3	
	3	2	1	
山形大	3	0	3	
	5(3)	2(1)	3(2)	
	4	2	2	
	2	2	0	
	10	7	3	
筑波大	8	7	1	
	1(1)	0	1(1)	
	2(2)	0	2(2)	
	3(2)	2(2)	1	
	2(2)	0	2(2)	
群馬大	1(1)	0	1(1)	
	3	2	1	
	1	1	0	
	1	0	1	
	2(1)	1(1)	1	
埼玉大	1(1)	0	1(1)	
	10	4	6	
	1	0	1	
	7(7)	3(3)	4(4)	
	1	0	1	
東京海洋大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
電機通信大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
東京医歯大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
東京外大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
東京学芸大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
東京農工大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
横浜国立大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
新潟大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
富山大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
山梨大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
信州大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
浜松医大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
大阪大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
神戸大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
鹿児島大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
琉球大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
福島県立医大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
首都東京	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
名古屋市立大	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
防衛医科大学校	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
水産大学校	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
	1	0	1	
国立大学・大学校総計	204(36)	104(13)	92(23)	

私立大学

	学部	総数	現役	卒業生
早稲田大学	文	11	6	5
	文化構想	11	5	6
	法	33	13	20
	政治経済	16	2	14
	商	32	11	21
	社会科学	6	1	5
	教育	10	4	6
	人間科学	5	1	4
	国際教養	6	2	4
	基幹理工	19	15	4
合計 203 (現役91, 卒業生112)	創造理工	26	18	8
	先進理工	27	13	14
	スポーツ	1	0	1